



年間宿泊観光客数四百万人構想について 観光力向上 2 (平成24年11月一般質問)

街の交流人口の増加を図る目的でコンベンションシティを謳う周南市では、様々なイベントを呼び込もうとしておられますので、私もこの企画に賛同し、来年は3つの全国大会の開催に関わらせていただいております。

①ハンドボールの全日本社会人選手権大会。

日本リーグに所属する男女20チームの試合。周南麒麟ビバレッジ。5日間。宿泊客数は延べ2,500人

②「清港会」の全国協議会の総会。

瀬戸内海クルージング、回天基地や記念館の見学、天然の良港、徳山下松港の素晴らしさ、瀬戸内の穏やかな海の青さと点在する島の美しさを紹介。

③全日本選抜還暦軟式野球大会。

周南市野球場や近隣の野球場において、約50チーム、1,600人が参加予定。

さらに、山口県では、平成25年の日本ジャンボリー、平成27年の世界スカウトジャンボリー、第28回ねんりんピックなどが開催される予定となっています。

また、先日、岩国錦帯橋空港が開港し、「株式会社おいでませ山口県」による観光キャンペーンも始まっています。特に、県内2空港の体制になることで、山口県への来県も利便性が増してくると思います。

また、山本県知事は10月に「産業戦略本部準備室」を立ち上げられ、来春には産業戦略本部として、正式に稼働を開始し、「年間宿泊観光客数四百万人構想」の推進による観光力の向上など、総合的な産業力の再生強化を進めることとされております。

「年間宿泊観光客数四百万人構想」の推進による観光力の向上には、全国大会のような大きなスポーツ大会やイベントの開催といった効果的なタイミングをとらえながら、新たな観光ルートづくりや観光資源の充実、各市の観光協会などと連携した「おもてなし」の体制整備などを総合的に進め、その人たちが再度山口県に訪れられるようにすべきと思いますが、県として、どのようにお考えか、ご所見をお尋ねします。

【山本知事 答弁】

観光力の向上は、少子高齢化が進む本県において、地域や経済の活性化を促す起爆剤となるものであり、私は、「産業力・観光力の増強」を明年度予算の最重点に掲げ、年間宿泊観光客400万人の実現を目指した、重点的、集中的な取組を進めることとしたところです。

この実現に向けては、特に大都市圏をターゲットとした観光客の誘致拡大が不可欠であり、そのためには、ご指摘のような、全国イベント等のタイミングを捉えて、戦略的な情報発信や各地域の観光資源の魅力向上、ホスピタリティの充実などに取り組み、本県に繰り返し訪れていただけるような受入体制づくりを進めていくことが重要と考えております。

このため、このたびの岩国錦帯橋空港開港を契機とした広域観光キャンペーンにおきましても、これまでの取組の成果を活かしつつ、首都圏への効果的な情報発信や県内2空港を活かした新たな観光ルートの形成、地元の食、歴史素材を活かした観光資源の充実を図るとともに、多様なサービスを盛り込んだ観光パスポートブックを配布しているところです。

また、地元各市町の観光協会や地旅の会などの連携により、ボランティアガイドの育成や受入サービスの充実などを図るなど、おもてなし体制づくりにも取り組んでおります。

県としては、今後、市町や関係団体と連携しながら、こうした受入体制の一層の充実を図るとともに、その成果を今後開催予定の大型イベントにもしっかりと活かし、宿泊観光客の拡大に繋げてまいりたいと考えております。

質問内容の全文はこちら

答弁の全文はこちら